

共同研究「日常茶飯」—日本人は何を食べてきたか—

第7回 公開研究会

携帯食の民俗学

—弁当箱・汽車土瓶などの物質性をめぐって—

角南聡一郎 氏（日本常民文化研究所所員 神奈川大学准教授）

日時：2025年2月13日（木） 17:30～19:00

参加自由

開催：オンライン Zoomミーティング 【開場：17:15】

申込方法：ご参加希望の方は、右のQRコードよりお申込みください。
IDとパスコードが自動返信メールにて送信されます。



発表要旨

食品・料理は消えモノと呼ばれ、民具研究／物質文化研究の対象に含まれず、一般的には食器や調理用具がその対象となっている。一方、出土考古資料の場合には、炭化した稲粃やおにぎりは自然遺物（ecofact）の類として、物質文化の一部とみなされている。また、近現代の弁当掛け紙や汽車土瓶は、今や博物館資料となり鉄道ファンのみならず注目と人気を集めている。ここでは人の移動に伴う食である携帯食に着目し、弁当箱や汽車土瓶などの物質性を検討する中で、物質としての食品や料理と物質文化研究の接点を探りたい。



復刻版汽車土瓶
(個人蔵・角南撮影)



崎陽軒シウマイ掛け紙
(角南所蔵・撮影)



ひょうちゃん
(角南所蔵・撮影)